

郷土館だより

Vol. 13. No. 2

1991. 3. 1

—企画展特集号—

名品「金鷄ミルク」を生んだ

花島兵右衛門



花島兵右衛門胸像

石川確治作 (大正11年7月7日)

毎年恒例のシリーズ企画展示、ふるさとの人物展を開催中です。本年度取り上げた人物は練乳（コンデンスミルク）製造の祖として知られる「花島兵右衛門」です。

花島兵右衛門略伝

花島兵右衛門は、弘化³年(1846)、三島宿竹林寺小路(現在の三島市中央町)に、酒造業を営む花島知栄の長男として生まれました。少・青年期の兵右衛門は家業を継ぐべく、商売の修業に出たり、農兵調練の青年小隊長となったり、いわゆる町の有力子弟としての道を着々と歩んでいます。

その後、兵右衛門の生き方に決定的な影響を与えたのはキリスト教でした。当時(明治初期)の社会では、キリスト教は解禁されたとはいうものの、未だ一般の人々の間には極めて異和感のある新興宗教でした。それにも拘わらず兵右衛門は、明治19年、家族7人に洗礼を受けさせ教会の一員となっています。よほど大きな感銘を受けたものと思われます。それから続け様に、酒蔵を西洋風の教会堂に改築し三島教会の礼拝堂に用いる、教会堂の2階にキリスト教主義の女学校を開校させるなどのことを実行しています。これより少し先には「豊牧舎」という牧場の経営も始め、乳牛の飼育と牛乳生産販売にも着手していました。まさに、酒から牛乳、酒蔵から教会堂への180度の方向転換でした。

牛乳生産から練乳(コンデンスミルク)製造に向かわせたのは、牛乳を少しでも長く保

存させたいという理由でした。この頃より兵右衛門の科学的な視野と研究熱心さが本領発揮され始めます。養子の撤吉と研究協力を重ね、米国から真空鍋を購入し、新方式による練乳製造に成功。他方ではイタリアから蜜蜂を輸入し養蜂を始め、更に米国からは乳牛優良種のホルスタインを輸入し改良畜産に努めるなど、農業や牧畜への新分野開拓にも力を傾けています。兵右衛門父子が製造した練乳は「金鶏ミルク」の商標で全国に知られる製品となり、練乳製造業もその後息子の信一、周一らに引き継がれ、バター、アイスクリームの製造へと発展しています。

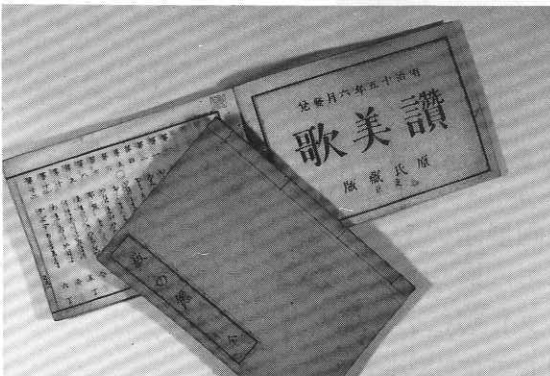
兵右衛門は、こうした酪農及び練乳製造の事業の他、「株式会社三島銀行」の創設、「伊豆鉄道株式会社」の発起設立などの、明治近代化の潮流に乗った地域経済活性化事業にも積極的に挑んでいます。

以上のような兵右衛門の生涯と功績に対して、大正5年(1916)には緑綬褒章が下賜され、昭和3年(1928)11月16日には昭和天皇即位の大饗の儀に召されるなど、数々の荣誉が与えられました。

兵右衛門が83才の人生を全うし、他界したのは、昭和4年4月12日のことでした。

資料に見る兵右衛門の軌跡

キリスト教



花島一家がキリスト教会で使用した賛美歌集など。『讚美歌』(明治15年6月発行)他。



明治期の教会新聞「福新報」(明治31年2月25日—東京麹町福音新報社発行—)

酒から牛乳へ

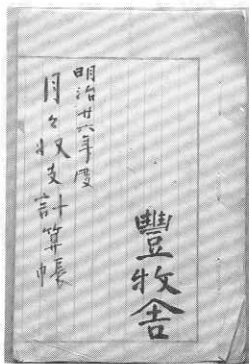


酒造業時代を物語る帳面「酒造米元帳」(明治18年)裏表紙に免許鑑札番号も記してある。



牛乳販売帳「牛乳之通」(明治41年)裏表紙には花島練乳場とある。

豊牧舎



二日町南で乳牛の飼育を始めた頃の「豊牧舎月々計算帳」(明治26年度)



豊牧舎引き札(明治24年)「官許うしのち」の旗と明治24年略暦(旧暦)の印刷がある。

養蜂, その他



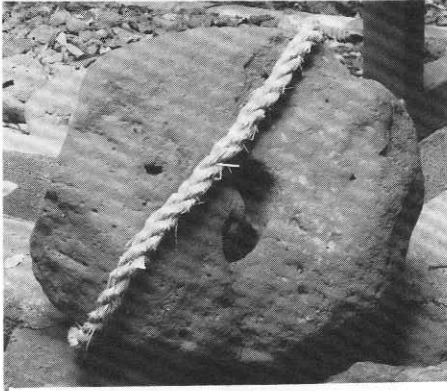
兵右衛門の関心は、牧畜だけにとどまらず、養蜂業にも向けられる。「養蜂日誌」(明治30、31年)



うさぎの飼育なども試みたものであろうか。花島練乳場の印のある「飼兔法」の書物も残っている。

三島

①耳石 (幸原 耳石神社)



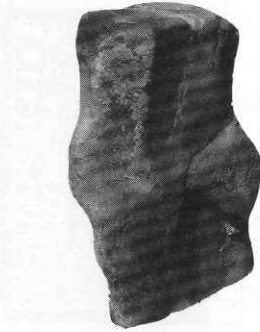
大石の中央に耳の形の穴があいている。これに祈願すれば耳の病気がなると伝えられ、今でも信仰する者が多い。

⑤崇り石 (三嶋大社境内)



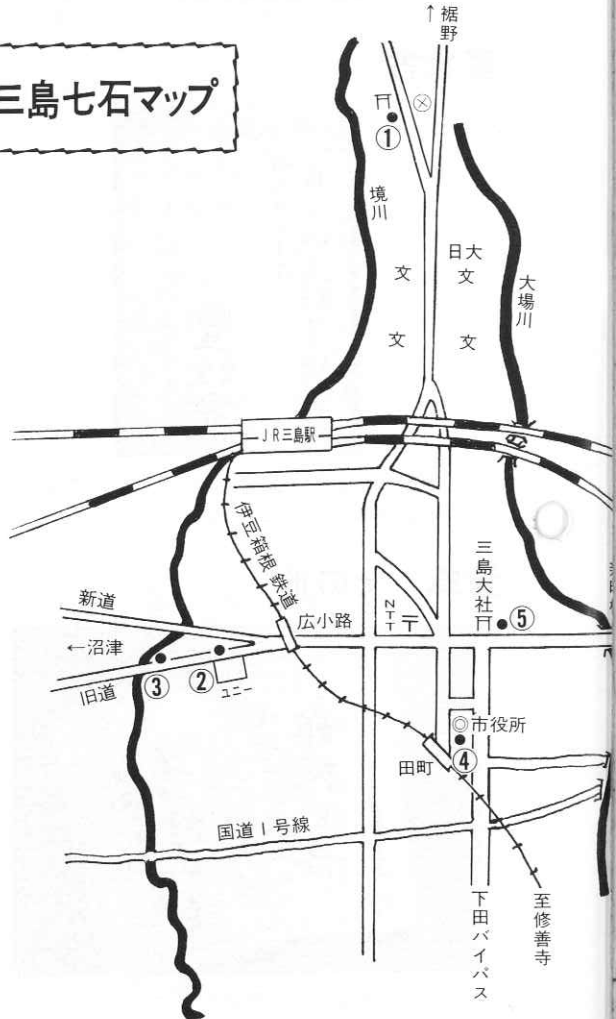
昔は鳥居前の路上に在り「榎石」とも称されていたという。道標的な石だったのだろうか。今は交通安全祈願の石とされている。

②市子石 (広小路)



昔は国分寺へ入る阿闍梨小路入口附近に在ったとされる。市子とは巫女(くちよせ)のことだが、所在地との関連ゆえの名称であろう。

三島七石マップ



③蛇石 (不明)

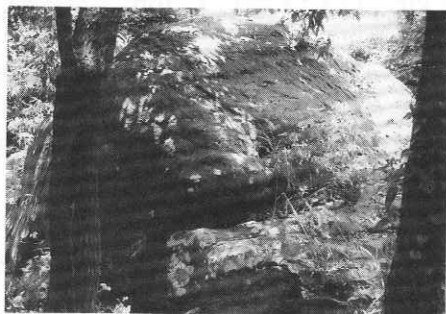
④蛙石 (揚原神社境内)



蛙石がもともと在った場所は明らかではない。名称は蛙に似た形状からであろう。

七石 など

⑥ 鬼石 (山田)



巨石である。鬼が運んできた、鬼が石に乗った、などの伝承がある。山田と小沢の村境にある。

⑦ 笠置石 (川原ヶ谷宝鏡院)

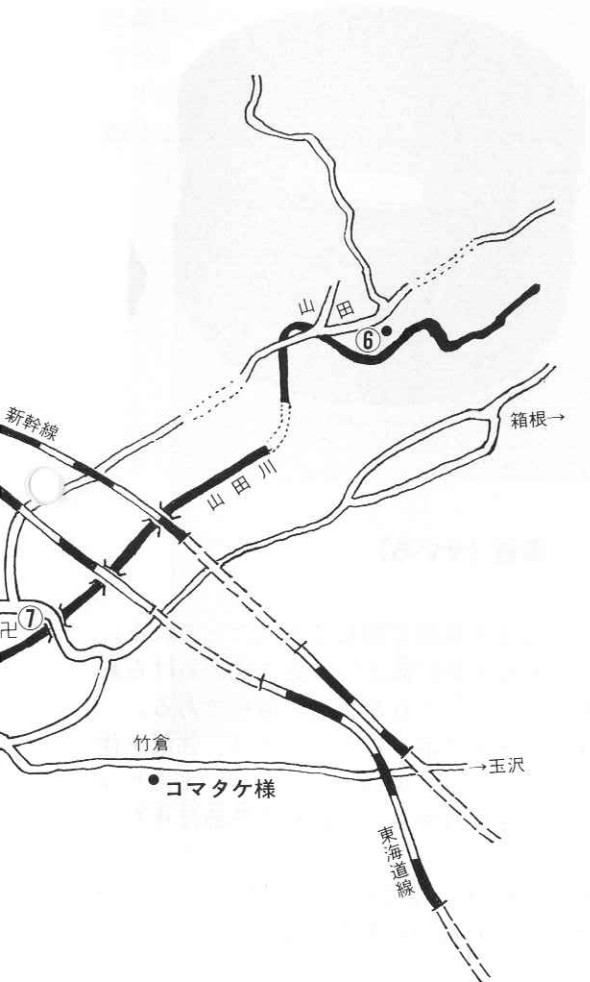


三嶋大社の祭神、事代主命が大仁から三島に遷られる時に、ここに笠を置いて休まれたという言い伝えがある。

■ コマタケ様 (夏梅木)



石には頼朝の駒の足跡あしあとが残ると伝わる。今では農耕馬の神として祀られ、毎年7月15日には祭りが催される。



企画展終了報告

「石と生活展」入館者数

平成2年11月23日～平成3年2月11日

	11月 23日～30日 (8日間)	12月 1日～26日 (25日間)	1月 3日～31日 (29日間)	2月 1日～11日 (11日間)	計(73日間)
小 (小中高) 人	955	701	1,223	650	3,529
大 人	1,476	2,645	3,745	2,020	9,886
団 体 (30人以上)	(3) 102	(3) 120	(10) 620	(2) 210	(18) 1,052
計	2,533	3,466	5,588	2,880	14,467

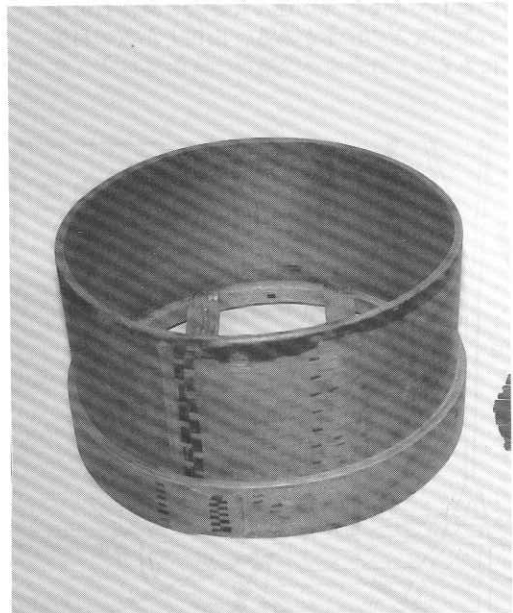
収 集 資 料 紹 介

氏 名	住所・電話番号	受入年月日	資 料	点数
光 安 寺	三島市日の出町6-3	H2.12.7	鉄びん	1
北川 泰男 氏	三島市一番町17-59	H2.12.7	棒秤り	1
神山千津子 氏	三島市一丁田95-4	H3.1.18	長火鉢	1
長谷川福太郎 氏	三島市加屋町10-3	H2.12.8	八尺下り(電灯自在コード巻き取り器)	1
高木 長平 氏	三島市西本町2-15 ☎75-7626	H3.2.13	五輪塔(2)、化石(小浜山)(1)	3
安井 藤夫 氏	菰山町奈古谷286 ☎49-0127	H3.2	蒸籠(セイロ)(2)、鋸(コビキ用)(2)、釜(羽釜)(1)、うどん(そば)作り(1)、俵編み機(1)、縄張り(1)	8



釜 (羽釜)

米のめしは炊き干し法が一番おいしい。釜はおいしいめしを炊くことのできる台所用具として、近年まで、どこの家にも有ったものだ。ところが、この釜が庶民の道具として使用されるようになったのは比較的新しい。江戸時代の中頃から後半にかけて、小農民の自立により、一般農家でも竈(へっつい)を家に備えるようになり、以来釜が普及したとされる。羽は竈の熱を逃がさないための工夫である。



蒸籠 (せいろう)

古くは米を蒸籠で蒸して食べたとされる。発掘される土器に甑という底に穴がつけられた器があるが、これが蒸籠の原形である。

現在、米を蒸籠で調理するのは、強飯を作る時だけである。米以外ではそば、まんじゅう、さつま芋等があり、むしろ蒸籠は専らこれに使われている。

材質は桧材で、曲物作りである。やはり、今はこうした曲物の蒸籠も少なくなっている。

ご利用下さい!!

郷土館の出版物

「三島宿本陣家史料集(6)」の刊行と発売

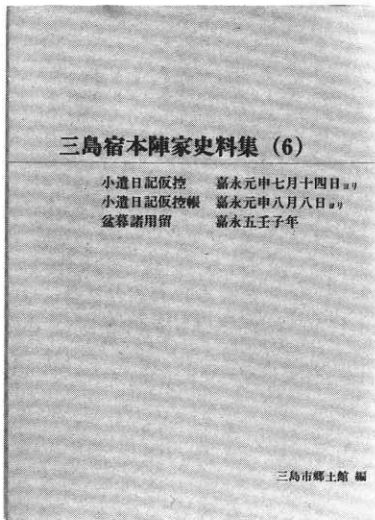
三島宿本陣家史料集の通巻6号が発刊しました。その内容は、樋口家文書の

- (1)小遣日記仮控 嘉永元年(1848年)
- (2)小遣日記仮控帳 嘉永元年(1848年)
- (3)盆暮諸用留 嘉永5年(1852年)

で、本陣という特別な家柄の樋口家の勝手(台所)事情のわかる史料です。

現在郷土館受付にて販売しています。(価格1,500円送料260円。遠方の方で購入ご希望の場合は、書籍代に送料を添えて現金書留または郵便局の定額小為替を利用して、お申込み下さい。)

本史料集は数少ない江戸時代の家庭文書発掘による価値ある史料集です。ぜひ御覧になって下さい。



「浮世絵三島絵はがき(2)」の紹介

郷土館では、平成元年に「浮世絵三島絵はがき(1)」を作成・販売しました。この絵はがきは浮世絵版画を題材としたもので、市民に好評のうちに完売となりました。本年これに続くものとして「浮世絵三島絵はがき(2)」を作成しました。そこで絵はがきの内容を紹介しますと、

- (1)題材 浮世絵に描かれた宿場三島
- (2)内容
 1. 東海道五十三次之内
版画「朝霧」広重(高見沢版)
 2. 三島明神一の鳥居 二代広重
 3. 東海道五十三次 三島狂歌入り
初代広重(佐野喜版)
 4. 雙筆五十三次三島 初代広重
三代豊国

(3)形式 4枚1セット袋入れ

(4)頒価 100円(4枚セット)

これら4枚の絵はがきは、どれも三島の昔をしのぶ、趣ある風景です。郷土館窓口にて販売中です。ぜひお求め下さい。



企画展図録「石と生活展」の紹介

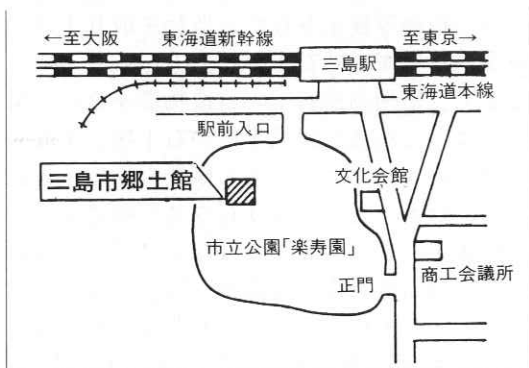
この図録は、企画展「石と生活展」～石の文化を発見～(平成2年11月23日～3年2月11日)にあわせ作成されたものです。

内容は、6つのテーマに分かれ、第1に旧石器時代の石器類より始まり縄文・弥生・古墳・戦国時代の石まで扱った「古代社会の石と生活」がテーマです。第2は「石の民俗」ということで、石の習俗・伝説等を取りあげています。第3は「展示石造物」を扱っています。この中には、市指定文化財になった光安寺の板碑等展示された石造物を取り上げています。第4は「石工の技術と伝統」ということで、信州高遠石工の石造物等を扱い、第5には「三島及び伊豆半島の石丁場」を取り上げ、第6には「石ウスの構造を探索」と題して、絵入り説明により石ウスの構造を示しています。そして最後に付録として「三島周辺の信州高遠石工の石造物一覧」を掲載しています。いずれのテーマとも非常に興味深い内容です。郷土館受付にて好評発売中です。1部1,000円送料210円です。ぜひお求め下さい。

郷土館刊行物一覽表

No.	図書名	内 容	単価 (円)	送料 (円)	No.	図書名	内 容	単価 (円)	送料 (円)
1	三四呂人形展	郷土が生んだ人形作家野口三四郎の作品紹介	1,200	260	11	ふるさと探訪	市内の名所、旧跡、文化財を訪ねるハンドブック	400	210
2	樋口家文書目録	樋口家に伝わる江戸から明治の古文書目録	500	210	12	三島の昔話	古老が伝えた昔話の集大成	500	210
3	勝俣文庫目録	伊豆佐野勝俣家に伝わる古書目録	200	210	13	浮世絵三島絵はがき(2)	江戸時代後期の三島宿を描いた浮世絵絵はがき	100	72
4	ワラと生活	日本人に深く関わるワラを使用した生活について考える	700	260	14	瀧の本連水とその師匠展	俳諧指導者瀧の本連水とその師卓郎、蓮山の作品紹介	800	210
5	はこぶ展	古くから用いられた運搬具を紹介	500	210	15	三島宿本陣家史料集(1)	樋口本陣家史料より文久4年の御用留の解説書(上)	1,600	310
6	三島のあけぼの	三島で発掘調査し、出土した遺物を紹介	500	210	16	三島宿本陣家史料集(2)	樋口本陣家史料より文久4年の御用留の解説書(下)	1,500	310
7	東嶺禅師展	白隠禅師の弟子東嶺禅師の生涯と遺墨の紹介	800	260	17	三島宿本陣家史料集(3)	樋口本陣家史料より慶応2年の御用留と天保4年の当用帳の解説書	1,700	310
8	三島暦と日本の地方暦	中世から発行され続けた三島暦と地方暦の紹介	600	210	18	三島宿本陣家史料集(4)	樋口本陣家史料より諸御定宿仮扣を解説したもの(上)	1,300	260
9	呑山他石展	三島の文人杉田呑山と俳諧指導者賛川他石の作品紹介	600	210	19	三島宿本陣家史料集(5)	樋口本陣家史料より諸御定宿仮扣を解説したもの(下)	1,400	260
10	石と生活展	伊豆や三島周辺より収集した石に関するものを紹介	1,000	210	20	三島宿本陣家史料集(6)	樋口本陣家史料より小遣日記仮控等を解説したもの	1,500	260

利用案内



三島駅(南口)から徒歩5分。市立楽寿園内

休館日 毎月第2月曜・12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入場無料(但し、楽寿園入園は、有料)

郷土館だより No.38

平成3年3月1日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館
 住所 〒411 三島市一番町19-3
 TEL 0559-71-8228
 発行 三島市教育委員会